

みくに



<楽器たちがやってきた!>

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
HP: <http://www.teshimamikunien.com>

わたしたち強い者は、弱くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

愛犬から学ぶ

2番館主任 松田 卓也

皆さんはペットを飼っていますか？ペットにも色々な種類があります。犬・猫・ハムスターなどなど。また犬の中でも犬種の違いがあり、それぞれ得意なこと・苦手なことがあります。

私事ではありますが、今年の3月に新しい家族を迎え入れました。1月28日生まれのゴールデンレトリバーのオス、名前をウィルと言います。フランス語で「勇敢な守護者」の意味があり、我が家を共に守ってほしいと思い、名付けました。ウィルを迎えることはとても楽しみで、夫婦そろって犬の飼い方を一から勉強することにしました。

犬のしつけには褒めることが大切と言われています。それは、犬の報酬系回路と嫌悪系回路の割合が8：2と言われており、犬のしつけでは望ましい行動をした際にご褒美をあげてやる気を高めることが効果的だからです。昔は飼い主と犬の上下関係を保つため叱ることが一般的でした。しかし最近の様々な研究で、犬は人に対して上下関係を求めていないと考えられるようになり、叱ることは、ただ単に犬に恐怖心を与え、問題を悪化させるということもわかつてきました。

トイレのしつけを例にとると、失敗した際には無言で素早く片付けるのが良いと言われています。ここでの注意点は、失敗したことに反応しないことです。声などを出して反応してしまうと、犬は遊んでくれると勘違いし、間違った行動を望ましい行動と思い込み、間違った行動を繰り返してしまうからです。また、成功体験をする為にトイレの時間になつたらゲージに戻し、排泄を促します。トイレでの排泄に成功したらたくさん褒めることで、犬はそれが望ましい行動と認識します。つまり失敗ばかりに着目するのではなく、成功に着目し、たくさん褒めることが最も効果的だと言われているのです。

これは、私たち人間社会でも言えることではないでしょうか？短所ばかりに着目しそれを治そうとするよりも、長所を活かし共に成長していく。そして何よりも相手のことを知ろうと努力すること。職場をはじめ、家庭や地域でも人と関わるとき、この考え方を大切にしていくことで、皆が自分の持っている力をのびのびと發揮できるのではないかと思います。

♪ 新しく仲間入りした楽器たち ♪ <音楽療法>

みくに園の日中活動に週3日の音楽療法を導入して15年目である。セッションルームには療法の目標、利用者さんの個性や好みに合わせた楽器が豊富に揃っている。和太鼓やシンバル等、大きな音が出る楽器はストレスの解放、運動によるリハビリテーション効果が期待される。また、ミュージックベル等の繊細で綺麗な音の楽器は集中力を高め、美的経験によって豊かな心を育む。良質で良い音の楽器は奏でる人の心の中を表現する。楽器演奏を通して言葉を超えた内なる思いを表現し、利用者さん一人ひとりの作品として音楽が生まれるのである。

この度、支援の充実のために約20種類の楽器を導入した。音楽療法を温かく見守つて下さる方々のご厚意により、予定よりもはるかに多くの楽器を導入することができた。届いた楽器を箱から出す時の利用者さん達のキラキラと輝いた目、初めて楽器を鳴らす時の集中力とワクワク感、そして「ありがとう」の笑顔。新しい楽器たちとどのような『音楽という作品』を創り、心の音を響かせてくれるのか楽しみである。

(音楽療法士 山田久美)



<オーシャンドラム>
<ジャンベ>
<パドルドラム>
<スレイベル>
<アゴゴドラム> etc.



研修会に参加しました

9月14日、公益財団法人かがわ健康福祉機構・研修部主催でおこなわれた障害者支援施設等職員研修会にみくに園から3人の職員が参加しました。講師は、以前みくに園にも来てくださったことのある香川大学教育学部教授・坂井聰氏。「障害があるとはどういうことなのか」をテーマに障害者福祉をめぐる法制度・施策の動向や個別支援の手法まで改めて学ぶ研修会でした。

『できないことがあるからその人は社会的に不利となる。だからそれを直して力をつける必要があるのだ』という旧来の「障害」の捉え方ではなく、『できないことがあることで活動が制限されたり社会参加を制限されてしまう、そのような社会の構造こそが「障害」なのだ』ということをとてもわかりやすく講義していただき、「その人の持てる力を100%引き出すために自分にできることは何か」について考えるよい機会となりました。

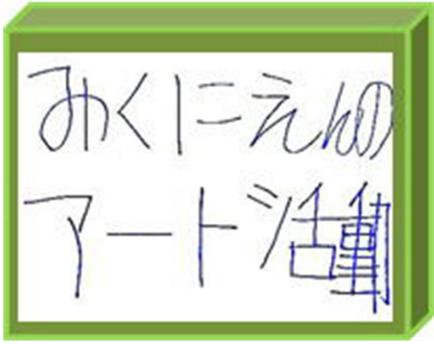
《研修の報告書より、参加した職員の感想を紹介します》

活動中に大きな声を出している利用者に対して「静かにしましょう」と伝えるのではなく「ボリューム0でしゃべりましょう」と言うなど、利用者の喋りたいという気持ちを否定するのではなく、それを受け入れたうえで分かりやすく伝え納得してもらう、という今までの自分には無かった考え方へ衝撃を受けた。
(佐藤)

坂井先生の障害者福祉に対する一貫して前向きな、明るい姿勢を目の当たりにしたことこそがこの研修を通じて得ることができた最大の収穫だった。先生はさらに「みくに園は1泊2日1万円くらいで他所の職員に現場を見てもらったら面白いんじゃないですか？良いところも、悪いところも、皆で話し合って」と自らのアイディアを披露してくださった。このような姿勢を是非とも見習っていきたいと思う。
(小澤)

講義の中で述べられていた点の中で利用者の方の「強み」を意識することが大切であるということに感銘を受けた。障害はその人の持つ要因だけでなく、その人を取り巻く環境も障害を構成する要因となり得る。その方のマイナスの状態のみに重点を置いて捉えるのではなく、その方を取り巻く環境を意識すること、その方のもつ強みも十分に考える必要があると考えた。
(西岡)

講義は大変エキサイティングであつという間に終わった。相手を変えようと思図するのではなく、自分自身の態度や行動についてよく熟慮し接することが必要。そのためには技術や知識をより深く身につけていきたいと思う。講義の内容をしっかりと咀嚼し、今後の業務に活かしていきたい。



タイトル文字：繁朋宏



3番館職員室前の廊下に、刺繡作品を
ズラッと並べて飾っています。

芸術の秋。暑かった夏も終わり、1番館・2番館のメンバーは10月からアトリエに戻って活動しています。画材が机にはみ出しても、木屑が床に落ちてもあとで掃除すれば大丈夫！という安心感で、のびのびと描いたり・作ったりできるのがアトリエのいいところです。

クレヨンでダイナミックに絵を描くのが好きな室崎さんや繁さん（ともに2番館）などはアトリエに戻ってから描くペースがどんどん上がり、毎週10枚近い作品を仕上げています。冬に向か、絵の具など他の画材にもどんどんチャレンジしていきたいと思っています。



チラシから切り抜いた人物写真を模写する室崎彰吾さん。
よく見て、使う色をじっくり選びながら描いています。

また、豊島公民館主催の「公民館まつり」が11月16日（月）～20（金）の日程で開催されることになりました。みくに園のアート活動チームも出展します。今年も、コツコツ制作してきた作品を地域の皆さんに見ていただけるのが嬉しいですね。日頃の活動の雰囲気が伝わるような展示にしたいと思います。

（吉野 記）

「2020パラアートTOKYO」国際交流展に出品していた三枝美津子さんの作品「プリン・ソフトクリーム・ドーナツ」（トートバッグに刺繡をほどこしたもの）がみごと入選し、去る8月19日～23日、東京芸術劇場ギャラリーで国内外の他のアーティストの作品とともに展示されました。（ホームページはこちら<http://virtualgallery.paraart.jp/2020/>）

新型コロナウイルス感染症対策研修

令和2年10月16日、講師として「日本災害救助支援機構」の方をお招きし、新型コロナウイルス感染症対策のための施設内研修会を実施しました。世間では自粛ムードも比較的緩和されてきていると感じられる昨今ですが、今回の研修会は私たち職員の意識を再度引き締めるよい機会になったと感じています。

この研修会では、講師の方から具体的にどのように感染拡大を防止するのかや消毒に対する正しい認識などを学ぶとともに、実際に私たちの手の汚れを可視化して、手の汚れがいかに落ちにくいか、また身の回りのものに付着しやすいかといった接触感染状況を体験しました。また、現地研修では実際に園内を講師の方に見ていただきながら、問題点や改善すべき点について、助言や指導をしていただきました。このような貴重な経験を通して、今まで以上に新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みに力を入れていきたいと思います。

(西岡 記)



<講義の様子>



<模擬体験>



<修了証明書>

お知らせ

新型コロナウイルス感染予防のため、面会や帰省、外出を制限しています。そんな中、園では月に1回利用者の楽しみとして豪華なお弁当とスイーツを食べています。ご馳走や甘いものを見るだけで利用者の顔がほころびてきます。また、少しでもご家族の方と過ごすことができればと10月27日、高松、土庄、宇野、直島の各港にみくに船を1時間停泊する「面会便」を実施しました。つかの間の時間でしたがご家族の方と楽しいひと時を過ごすことができました。今後はオンライン面会もしていく予定です。ご希望の方は各棟へお問い合わせください。

編集後記

「もくせいのにおいが庭いっぱい。おもての風が、ご門のとこで、はいろか、やめよか、そうだんしてた。」詩人金子みすゞが秋の平凡な日常を詠った詩です。

日常生活の中でマスクをつけることが当たり前になっており、季節の香りに心を癒されることを忘れてしまっていましたが、この詩から、きんもくせいの甘い香りや澄み切った秋の風のにおいを思い出しました。これから秋も深まり、紅葉がきれいな季節です。まだまだ元通りの生活とはいきませんが、時には思いきり深呼吸をしたり、自然に触れる時間をもって、心豊かに過ごせたらと思います。

* みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920